

## マレーシア探究のグループが国際会議の高校生セッションに参加

8月4日（金）、5日（土）の2日間、京都大学稲盛財団記念館で防災に関する国際会議、「Toward Building a Regional Platform for Disaster Risk Reduction in Asia」が開催されました。会議を主催した京都大学東南アジア地域研究研究所に所属しておられる西芳実准教授から事前に「国際会議のプログラムの一つに高校生によるセッションの時間を設けたい」こと、および「北野高校の生徒にもぜひ参加してほしい」旨のご相談をいただきました。西先生、同研究所准教授の山本博之先生と本校SGH担当教員との打ち合わせを経て、今回の高校生セッションに本校の課題研究SGH関連講座社会系を選択している2年生4名が参加することになりました。

※ 国際会議のプログラムについては京都大学東南アジア地域研究研究所のホームページをご覧ください。

### 高校生セッション・当日の進行は…

山本博之先生が主催者を代表して挨拶された後、参加した4校を紹介してくださいました。

福岡県立鞍手高等学校  
兵庫県立葺合高等学校  
大阪府立三国丘高等学校  
大阪府立北野高等学校

（当日の発表順）

4校ともSGH研究指定校です。



北野高校の2年生4名は、

「マレーシアにおける民族と経済活動との  
関連性について」

“Ethnic groups and business in Malaysia”

というタイトルで、多民族国家であるマレーシアにおいて、マレー系と中国系の二種類の民族に着目し、人々の就業形態と経済状況との関連性について、歴史的背景もふまえながら現在まで探究活動やワークショップなどによって得た知見をもとに英語で発表をしました。

発表の後は、国際会議に参加された4か国（インドネシア、フィリピン、マレーシア、日本）の研究者のみならず、質問や助言をいただきました。



山本先生にサポートしていただきながら、英語での応答もがんばりました。



終了後には交流タイムが設けられました。東南アジアから来られたスタッフの方たちだけでなく、他校の高校生と交流できたことも大きな収穫でした。

### 参加した生徒によるレポートからの抜粋です。

<今回のワークショップで得られたこと（自分自身にとってのメリット）>

\* 他の学校の発表のクオリティの高さに驚いた。できたら私も、本文は全部覚えて準備万端で臨みたいと思った。

\* あまり慣れない英語での発表ができたということは良いことだった。また、他の学校の人達との交流でアドバイスをもらえ、マレーシアの先生から名刺をいただいたのは収穫でした。

\* 自分たちの調べたことはまだまだ掘り進めることができると、他の学校の発表を聞いていて感じる事ができた。また、マレーシア国籍の人と実際に会話をする事ができ、良い経験になった。

<次回以後の探究活動にどう生かすことができるか>

\* ある程度基本的な事項は調べられたことが確認できたので、「どう解決するか」をより具体的にやっけていこうと思います。

\* マレーシアの経済格差の是正を行うことで、自分達の生活や世界の経済や情勢がどうなるのか、又、それ故に生じる利益の有無など、研究だけではなく、その後の予想も行うべき。

### 最後に…

今回アドバイスをいただいた各国研究者のみなさま、そして貴重な機会を作ってくださいました西先生、山本先生はじめ京都大学東南アジア地域研究研究所スタッフのみなさまにあらためて感謝申し上げます。